

ドローンによる省力穂肥に新提案!

高濃度散布可能な窒素液肥



コロン

正味:20kg
(約15.6 L)

保証成分 [%]

チッソ	リン酸	カリ
27	0	0



使いやすい液状タイプ!

★ドローン散布にぴったりな3つのポイント★

ポイント
1

ドローンへの 補給が **軽労!**

液状でチッソ成分も27%と高いので、ドローンへの補給回数が少なく省力的!



ポイント
2

超高濃度 散布が可能!

希釈倍率2~5倍の超高濃度散布においても肥料焼けが発生しにくい!

ダイズに対する高濃度施用試験

尿素 3.3倍希釈 (N : 14%)

コロン 2倍希釈 (N : 14%)



ポイント
3

葉面吸収で 吸収効率が高い!

粒状肥料による施肥量の1/2~1/3の施肥量でも同等の効果が期待できます。 ※裏面試験事例参照



ドローンなら夏場の穂肥もらくらだね!



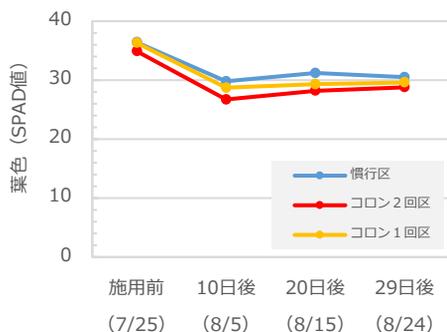
試験事例のご紹介(分施肥系)

試験場所：新潟県佐渡市
 試験品種：コシヒカリBL (田植日：5/22)
 試験区概要：
 慣行区(粒状穂肥2回区)、コロン2回区、コロン1回区の3区にて比較。
 穂肥1回目は7/26、2回目は8/5(慣行区は8/4)に施用。
 コロン区は2倍希釈液(体積比)にて、肥料効率を3倍として、下表の設定量にて散布した。

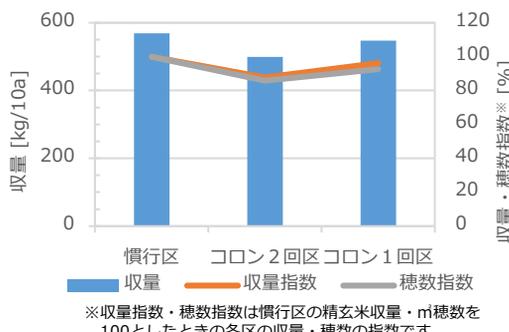


表：試験区チッソ施肥量設定

	チッソ施肥量 [kg-N/10a]			
	育苗+基肥	穂肥1回目	穂肥2回目	合計 (うち無機態N)
慣行区	2.76 (うち無機N: 0.82)	0.96 (うち無機N: 0.48)	1.06	4.78 (1.30)
コロン2回区		0.33	0.33	3.42 (1.48)
コロン1回区		0.67	-	3.43 (1.49)



グラフ①：穂肥施用による葉色 (SPAD値) の推移



グラフ②：収量調査結果

試験結果まとめ

- ★肥料の散布作業時間は約40%短縮！
(散布機の準備・清掃時間を除く)
- ★チッソ量1/3施肥でも、葉色 (SPAD値) は同等に推移！
(グラフ①)
- ★収量はやや少ない傾向ではあったが、穂肥効果は十分に確認！
(グラフ②)

散布液調整方法

コロンのご使用に際しては、はじめに希釈液(コロン液)をご準備いただき、投入したい窒素成分に合わせてドローンの吐出量を調整いただくと便利です。調整方法の一例をご紹介します。

①コロン液の準備



2倍希釈液の作成

コロン1箱は約15.6Lです。2倍希釈液を作成の際は、同量の水で希釈してください。

②散布量を決定する

右表より、投入したい窒素成分に合わせてコロン液の散布量を決定します。コロンは葉面散布で肥料の吸収効率が高いため、少ない散布量で効率的・軽労的に穂肥作業が可能です。

窒素成分：1.0 kg/10a
 ↓
 コロン液 散布量：1.93 L/10a
 (うち化学窒素：0.33 kg/10a)

10aあたりの窒素施肥量と散布液量

窒素成分	コロン液散布量 (2倍希釈の場合)	うち化学窒素
0.5 kg	0.96 L	0.17 kg
1.0 kg	1.93 L	0.33 kg
1.5 kg	2.89 L	0.50 kg
2.0 kg	3.86 L	0.67 kg

※吸収効率を3倍程度とすると、窒素成分1kg相当のコロン液の化学窒素は0.33となります。
 ※吸収効率を考慮する場合は、あらかじめ施肥試験を実施し、肥料効果をご確認のうえでご検討いただくとより効果的です。

使用上の注意

- 施肥量は、品種・葉色・生育状況等により適宜加減してください。
- 資材の特性上、アンモニア臭がありますが、作物に対する影響はありません。
- 散布する場合は、周囲の建物や人を避け、ドリフトに十分注意して行ってください。
- 散布中に長時間使用を中断する場合は、散布装置に通水して肥料を軽く洗い流すなどの処理を行い、装置内に肥料が長くとどまらないようご注意ください。また、散布装置に付着した肥料は、装置の管理方法に沿って正しく清掃してください。

この肥料の利用法に不明な点がありましたら最寄りのJAにご相談ください。